

海外では先物市場をこう利用 [大豆ミール]

ユニパックグレイソン
代表取締役

茅野 信行

大豆ミールは家畜の重要な飼料です。欧米の食文化は、よく「肉とジャガイモ (beef and potato)」といわれるように、伝統的に肉食が中心になっています。食肉の生産と大豆ミールの供給の間には切っても切れない密接な関係があるのです。肉食中心の欧米では大豆ミールはどのようにして売買され使用されているのか、米国を例にあげて説明しましょう。

高品質の飼料に

大豆ミールは工場で製造される工業製品です。米国では大豆ミールを作るために大豆を絞っています。大豆ミールは、油を絞った後、残った大豆を加熱し、細かく粉碎したもので、きめの粗い粉状の薄片です。大豆ミールには約44%のたんぱく質が含まれています。大豆油を絞る前に大豆の表面の薄皮を取り除き、たんぱく質の割合を49%まで高めた高たんぱくミールもあります。

大豆ミールはリジンを多く含む、栄養のバランスのよい、優れたたんぱく飼料です。家畜の飼料は、簡単にいうと、カロリー源である穀物とたんぱく源である大豆ミールを混ぜ合わせて作ります。飼料に使われる穀物には、トウモロコシ、マイロ(コウリヤン)、飼料用小麦、大麦などがあり、たんぱく源には、大豆ミール、菜種ミール、綿実ミール、魚粉などがあります。両者の中間的な性格を併せ持

つ原料にはフスマや米ヌカなどがあります。飼料穀物と大豆ミールの配合比率はおおよそ4:1です。簡単にいうと、栄養バランスのよい大豆ミールを使うことによって高品質の飼料ができ、その結果、消費者は脂身の少ないおいしい肉を食べられるのです。

家畜の飼料は、日本では、臨海の大規模工場で完全配合飼料として製造され、大型トラックで農場へ運ばれ、農場では出来合いの配合飼料をそのまま家畜に与えるのが普通です。日本は配合飼料の原料の大部分を海外から輸入しているので、物流コストを削減する必要があります。

取引の指標はシカゴ

他方、米国では、全国どこでもトウモロコシや大豆が生産されています。したがって畜産農家はトウモロコシやマイロなどの飼料穀物を生産地のエレベーターから直接、買い付けます。大豆ミールも搾油工場から直接買い付けています。

買い付けられた飼料穀物や大豆ミールは鉄道貨車で運ばれてきます。このほかに、畜産業者は飼料会社から、ビタミン、ミネラル、モラセス(糖蜜)などの微量添加物を粉状に固めたサプリメントを購入します。畜産農家はこれらの飼料穀物やミール、それにサプリメントを農場でミキサーを使って混ぜ合わせ、

配合飼料を作って家畜に与えています。

畜産農家は、ひな、子豚、子牛などを大きく育て、それを出荷して収入を得ています。農家が収入を増やすためには、飼料代を安く上げること、いや、もっと積極的に飼料代を引き下げることが必要です。つまり、畜産経営には、トウモロコシや大豆ミールを安く買い付けすることが欠かせないのです。

大豆ミールはシカゴ商品取引所で取引される大豆ミールの先物価格を指標として取引されます。具体的にいうと、大豆ミールの価格は、トウモロコシと同じように、大豆ミールの先物価格にベース（基礎差額）を足して決定されます。畜産農家はその生産計画にしたがって必要な大豆ミールをできるだけ安く手当てしようとしています。そして、畜産農家は大豆ミールの先物価格を見て、自分が安いと思った日に大豆ミールを買い付ければよいのです。畜産農家は米国内の需要が好調で、先行き大豆ミールの値段が上がると思えば、後で必要になる大豆ミールを前もって買っておくことができます。大豆ミールの貨車による積み出しを、自分の使用計画に見合うように、後回しにしてもらえばよいからです。

搾油会社もヘッジ

ところで、畜産農家に大豆ミールを供給する側の搾油会社はどのようにしているのでしょうか。搾油会社は大豆ミールを製造したら、出来上がった大豆ミールに対して、シカゴ商品取引所の先物売り、ヘッジを実行します。大豆ミールの現物に対し、先物売ることによって、現物価格と先物価格の差額、すなわちベースが得られます。搾油会社は大豆ミールの価格を、先物市場を利用してベースの形に変え、畜産農家との商談に備えるわけ

です。このように、畜産農家も搾油会社もどちらもシカゴ商品取引所の大豆ミールの先物を利用して、ヘッジを実行したり、買い付け価格を決めたりします。

それだけではありません。このほかにも、先物市場に投資して利益を得ようとする投資家があります。投資家は、自分の判断で、相場が上昇すると思えば買い、下落すると思えば売って、相場変動に対し賭けに出るのです。投資家は、売った先物は後日買い戻し、買った先物は後日売り戻して、利益（損失）を確定させます。

このように、シカゴ商品取引所の先物価格が上昇や下落を繰り返すことによって、やがて市場全体の需給が調整されます。高価格は需要を減少させる一方で供給を増やし、低価格は需要を増やす代わりに、供給を減らすからです。これが市場メカニズムと呼ばれる価格変動による需給調整の機能なのです。

米国農産物需給予想 (千メトリック・トン)

大豆ミール		2001-02年	2000-01年
(供給)	期初在庫	347	266
	生産	36,371	35,733
	輸入	45	46
	合計	36,764	36,046
(需要)	国内	29,348	28,770
	輸出	7,167	6,927
	合計	36,515	35,697
期末在庫		249	347

(米国農務省2002年1月11日発表)

注：合計の違いは四捨五入による
年度=10月1日～翌年9月30日

大豆3品の生産量 (千メトリック・トン)

	2001-02年	2000-01年
大豆(搾油)	45,584	44,659
大豆ミール	36,371	35,733
大豆油	9,128	8,362

(米国農務省2002年1月11日発表)

注：筆者の計算による